山形大学医学部附属病院からの
お知らせ
NEWS
Summer 2023
23
発行：2023年6月20日

●Topics…新病院長挨拶 ～地域に根ざした大学病院を目指して～
●取組案内1…形成外科　●取組案内2…腫瘍内科

附属病院の最新の医療を紹介する広報誌VOL.23が出来上がりました。これを機会に当院の医療を知っていただき、地域のリソースとして有効に活用していただければと思います。

Topics

地域に根ざした大学病院を目指して

前病院長佐藤慎哉の後任として、4月1日から病院長に就任いたしました土谷順彦です。日頃から大変お世話になっておりますみなさまに、ひとことご挨拶申し上げます。

私は2015年に秋田大学から山形大学に赴任し、泌尿器科長として7年余りにわたり山形県での診療にあたってきました。隣県秋田とは医療を取り巻く状況に共通する点はあるものの地域特有の問題点も多く、いまだに葛藤する日々を送っています。

さて、山形大学医学部附属病院は「社会に開かれた病院を目指す」ことを理念のひとつとしています。そのためには、地域の医療機関と密に連携を取りながら、風通しの良い関係を築いていくことが重要と考えています。しかしながら、患者さんの紹介や予約に関わる多くのご意見があることも承知しております。

これまでの3年間、地域の医療関係者のみなさまとは顔の見える対話がほとんどない状況が続く中、多くの患者さんをご紹介いただき、そして紹介させていただきました。私自身、患者さんの目線で医療を考えることと同時に、実際の医療の現場での問題点を把握するために、現在も週2日は外来を続けていますが、「この医師であれば患者さんを任せられる」という互いの信頼関係の重要性を実感しています。

これからもNEWSレター等を通じて最新の情報を発信すると同時に、双方向の情報共有の機会を設けるなど相互の信頼関係を築き、地域医療という枠組みの中で患者さんが満足のいく医療を提供できるような体制作りに努めて参ります。そのためにも、みなさまからの率直なご意見が非常に参考になります。引き続き、ご指導ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

看護部長、地域医療連携センタースタッフ、コンシェルジュの皆さんと

□問い合わせ／山形大学医学部附属病院 〒990-9585 山形県山形市飯田西2-2-2　TEL 023-633-1122
https://www1.id.yamagata-u.ac.jp/MIDINFO/
山形大学医学部総務課庶務担当（秘書室）　TEL 023-628-5872　E-mail yu-isokoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
バックナンバーはこちらから

取組案内 1　形成外科

創傷外科のご案内

創傷はきりきず、すりきずなどの一般的にありふれた軽微なけがから、熱傷、四肢挫滅創、組織欠損創などの重症な急性創傷、また褥瘡、足潰瘍などの難治性潰瘍まで多岐にわたります。これらを適切に評価し、どうすれば最短できれいに後遺症なく治せるかを考えて最善の治療を行うことはとても重要です。さらにそれら創傷が治癒した後の「きずあと」のケアや、肥厚性瘢痕、瘢痕拘縮などの適切な管理も大切なことです。

形成外科はこれら創傷や瘢痕を扱うのを得意としています。形成外科の知識や技術を応用した専門分野として「創傷外科」があります。適切な創傷治療を多くの方に知ってもらい国民の生活の質向上を目指すこと、また、創傷を学問として扱い、研究や治療開発の発展につなげることを目的に2008年には日本創傷外科学会も設立されました。形成外科専門医が取得できる独自の創傷外科専門医制度も確立しています。

山形大学医学部附属病院形成外科では、最先端の治療機器や診療材料、手技を用いて「きず」「きずあと」の専門的診療を行っております。日常的なけがから、管理に迷う難治性潰瘍、肥厚性瘢痕、瘢痕拘縮など広く受け入れています。該当の患者様がいらっしゃいましたら是非当科にご相談ください。

日本形成外科学会・日本創傷外科学会の啓発ポスター

取組案内 2　腫瘍内科

がんを薬による治療を主に行う

大学病院では、様々な腫瘍の化学療法を主に外来を中心に行っています。特に消化器・呼吸器・乳腺・骨軟部・原発不明の腫瘍は、集めている疾患になります。化学療法をはじめとし、診断では遺伝子診断を、化学療法が終了に近づいたら緩和医療の案内も含め、腫瘍の診断・治療を幅広く行っています。

がん化学療法とは、抗がん剤を使って、がんを小さくする又はこれ以上大きくなるのを食い止めることで、がんの症状の緩和や患者さまの延命を図る治療法です。最近の抗がん剤の進歩のほかに、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤も含めると、治療のやり方がより複雑になってきました。しかし、それによりある種のがんでは治ることも期待できるようになってきました。

外来がん化学療法室は、外来で患者さまに快適な環境下で抗がん剤治療を安全に受けて頂くことを目的とした施設です。入院での化学療法も同じシステムで動いています。がん化学療法を安全に行うためには、標準治療計画(プロトコール)も重要です。薬剤師による安全キャビネットを用いた無菌調剤を行うとともに、薬剤が適性に投与されるか何重にもチェックしつつ化学療法パスを使って実施する体制を構築して、安心して治療を受けて頂けるようシステムを作っています。

元気なころに近い環境で生活することは、辛い闘病生活で厳しい治療を受けるに当たって非常な励みになります。その助けを腫瘍内科が努力しています。

がん化学療法室